

子育てを考えるヒント

1. はじめに

チェックしてみましょう！！

家の中で心をこめて、雑談ができますか

おさえておきましょう！！

昔に比べて身体が丈夫ではなくなった子どもたちは、心もまた丈夫ではなくなりました。全般的に、耐える力が落ちてきています。

心に留めてください！！

「子育ては運次第」……、それくらいの気持ちで子育てを楽しみましょう。肩を張らずに子どもとふれあいましょう。子どもを100%コントロールできたとしても、いろいろな問題が出てくるものです。

2. 子育ての3禁；「これだけはやらないで」

(1) 子どもを気分次第で褒めたり、叱ったりしない

- ・ 子どもは同じことをしているのに、親の気分次第で、褒めたり、叱ったりするのは一番よくない。一貫したかかわり方が大切である。0～1歳は、親のかかわり方に、大きく心が揺さぶられる時期である。

(2) 夫婦仲を悪くしない

- ・ 子どもの心の成長を考えれば、夫婦仲が及ぼす影響は非常に大きい。夫婦仲が悪くなると、母親の心が不安定になる。その影響をもろに受けるのが子どもである。

(3) 否定的な言葉を投げかけない

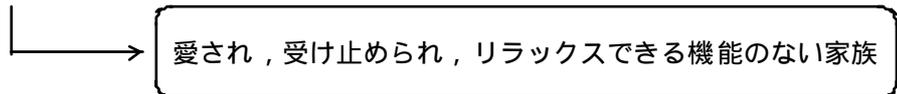
- ・ 「なんてあなたはダメな子なの！！」という否定的な言葉をかけ続けると、子どもは否定的な自己イメージを作り上げてしまう。親からの言葉は、子どもにとって「心の呪文」となっていく。特に、兄弟間の比較は避けたい。
- ・ 肯定的な言葉をかけることは、仮に効果をもたらさないとしても、マイナスにはならないので、試みて損なことはない。

- ・ 「自分是可以するんだ」と思える子どもは、持っている能力以上の力を発揮することが多い。逆に、「自分は何をやってもダメだ」と思ってしまう子どもは、持っている能力を発揮することができないことが多い。

(例) テストの結果を見て、「俺はこんなもんじゃない、もっとできるはず」と思うか、「俺がこんなにいい点をとれるはずがない」と思うかは、自己イメージの違いによる。

3. 機能不全家族で育った子ども；「アダルトチルドレン」

(1) 機能不全（ディスファンクション）家族



(2) アダルトチルドレンが果たす5つの役割

アダルトチルドレンは、「アルコール依存症家族」や「機能不全家族」の中で、「生き残り」(サバイバー)となるために次の5つの「役割」(ロール)を果たす。

「家族英雄」(ファミリー・ヒーロー)
勉強やスポーツなどで高成績を上げて家族が良く見えるようにする子ども。別称「スーパー・チャイルド」

「道化者」(クラウン)
家族の中で面白く振る舞い、葛藤を減少させる子どもを意味する。別称「マスコット」

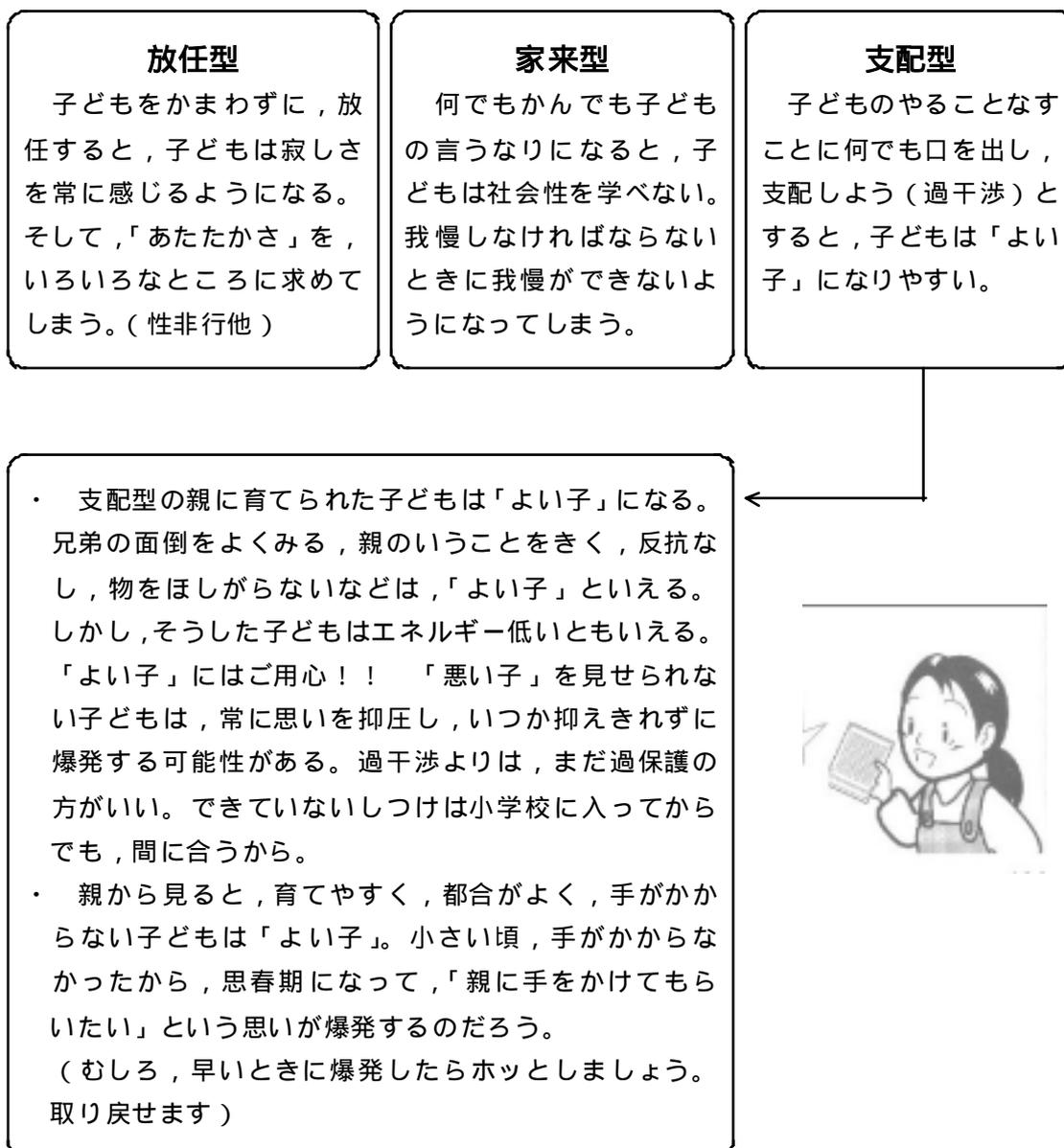
「なだめ役」(プラケイター)
家族の仲介役をとる子ども。別称「世話役」(ケア・テイカー)

「犠牲者」(スケープゴート)
自分が問題者となり、家族の問題を子どもの問題へと転換させる子ども

「いなくなった」(ロスト・ワン)
目立たないようにして存在しないことによって注意を自分のほうへ引こうとする子ども。別称「失われた子ども」(ロスト・チャイルド)



4. 避けたい家族スタイルと「よい子」の問題



5. 求めたい、「癒し系家族」

(1) お互いが弱音を吐ける家族

大河内君事件の後、子どもに対するアンケート調査が行われた。その中で、「いじめられても親に言えない」という子どもが多かった。「親に心配、迷惑をかけたくない」という気持ちからのようだが、それは悲しい。子どもから助けを求められる親になってほしい。子どもの前でお互いに愚痴を言い合える家庭をめざしたい。子どもが、「そうか、弱音を吐いてもいいんだな」と思える家庭をめざしたい。

お互いに何でも言える家庭、怒ったり、悲しんだり、感情交流のある家庭をつくりたい。(「フーテンの寅さん」の家のイメージ)

(2) 夫婦仲のよい家庭

夫婦のスキンシップを子どもの前で見せることができるような家庭を求めたい。たまに、いちゃいちゃしてみせるのもいいだろう。肩をもみ合ったりするのもいい。

ときには、いい父、いい母の役割をすっぱり下りることも大切である（両親を見る子どもの肩の荷が下りる）。

(3) 時間と小銭を惜しまない家庭

児童期は「教える」ことがなじむ時期、思春期は「考えさせる」ことがなじむ時期である。大人、権威に反抗する気持ちが強く、自分づくりの時期でもある思春期は、子どもとのコミュニケーションの取り方が難しい。

大事な話は家から出て、喫茶店でコーヒーでも飲みながらするとよい。「ポジティブなお願い」をするとよい。

< 参考 >

子どもへのアンケート結果には、死にたいと思うのは、「食事時の母からの説教」と示されている。子どもの多くは、仕事に忙しい父にはあまり期待しないが、母には期待する。大好きな母からの説教が一番こたえるのだろう。

* 本資料は、平成 15 年 1 月 26 日に秋田市で行われた「癒し系パパの実践子育て講座」（講師 諸富祥彦；千葉大学助教授）を参考に作成いたしました。